



善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

149

『現代版黒船来航の図?』



文月 斉 (ふみつき さい)
埼玉県出身。
人と街、自然と文化を題材に、
みちくさばかりの旅を続ける
エッセイスト。
函館、埼玉、大阪を拠点に
旅を満喫中。

前略、変わりはないか？

今年の函館は旅人の多い夏だった。「だった」なんて言ったら、いまだ残暑の厳しい町で暮らす君に怒られるかな。もちろん函館でも真夏日を何回か記録したけど、昨年のような身の危険を感じる暑さというのとはほとんどなかった。避暑を目的に函館を選んだ人は、今年は望みがなかったはずだよ。東京から来たという旅人と話す機会があったけど、飛行機で1時間そこそこしか飛んでいないのに、10℃も低い気温であることを羨ましがっていた。そりゃそうだよね、真夏日でも1日の4分の3は環境省が推奨する室内温度の目安、28℃より気温が低いんだから。真夏もこの町に来た当初そうだったけど、レストランやタクシーなど、冷房が効いている場所では涼しすぎてブルブル震えていたもん。極端な例だけど、夕暮れに薄手のダウンを羽織っていた東南アジア系の旅人も見かけたからね。

一方、西洋系の旅人は基本的に薄着の人が多いね。今年は春先から随分と多くの外国人旅行者を見るけど、僕の感覚だと全体の6割くらいは欧米系の旅人だね。クルーズ船の入港が増加したせいもあるのかな。横浜や長崎ほどではないけど、函館には今年、60隻近い大型クルーズ船が入港する予定なんだ。数で言えば君の暮らす町と同じくらいの規模かな。真冬の入港がほとんどないことを考えると、けっこうな頻度になる。ほとんどの船が、かつて青森と函館を結んでいた青函連絡船の埠頭に着くので、クルーズ船との距離感がとても近い印象だね。旧市街のいろいろな場所から姿が見えて、僕の普段の生活圏からもよく見える。平屋建ての民家の間から見えるその姿は、怪物が街を徘徊するウルトラマンのワンシーンのようでおもしろいよ。ほとんどの船が朝の7時前に入港して、12時間ほど滞在して出向していく。その間、乗客が観光するので、旅行者の顔ぶれでクルーズ船が入港したことがわかるんだ。たださえ異国情緒あふれる町と称されるだけあって、これがなかなか絵になる。僕に絵心があつたら、まちがいないキヤンパスに描いているね。特にお薦めなのが、古いレンガ造りの倉庫が並ぶ観光地。出航の時間が近くなる夕方は、観光を終えたクルーズ船の乗客が時間をつぶすのに集まっているので、もはや日本人よりも外国人のほうが多い状態。ベンチに座ってボーっと眺めていると聞き慣れない外国語の会話が聞こえてきて、どこかヨーロッパの港町にでも来ている気分を味わえるんだ。

そんな外国人が高い頻度で写真撮影していたのが、全国で観光人力車サービスを提供している「えびす屋」の人力車。僕にとっては見慣れた乗り物だけど、大型クルーズ船をバックに走る姿はいつになく異質で、かつて黒船が来た時にも同じような違和感を感じたんだろうなあと当時の人の思いに心を馳せていた。なかなか乗る機会がなくて、移動手段の一つくらいだろうと思っていたけど、これがぜんぜん違うんだ。「観光」と謳うだけあって、その知識と来たら町の歴史からご当地グルメ、地域ネコの名前まで把握する博識ぶり。名所旧跡から俵夫だけが知るスポットまで、乗る人の好みに合わせて案内してくれる。初めての町でどこに行ったらいいのかわからないって人なら、想像以上に濃密な情報を得ることがあるので利用するべきだね。俵夫の意識も非常に高く、道を聞かれたら快く案内してくれるし、まるで観光大使。人力車を利用するかしないかは二の次で、函館に来たなら早く案内してくれる。俵夫の中には自発的に全国通訳案内士の資格を取得する人もいそうだよ。函館を統括する社長さんとも話してみたけど、体力勝負でどうしても現役生活が短くなるから、引退後どこにも通用する人間力を磨くことを意識して育てているそうだよ。いやあ、いい話が聞けて、その晩の酒が旨かったこと。今度君がこの町に来たら、一緒に乗ってみよう。分かっているって、お酒の美味しい店巡りでしょ。リクエストしておくよ。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索